宝田電産株式会社様に対する
『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第1回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2025 年 3 月 25 日（火）に実行した山本支店取引先 宝田電産株式会社（香川県三豊市山本町神田 代表取締役社長 石田 貴志）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス（※1）』に対し、第 1 回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

（※1） お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会 社 名　宝田電産株式会社
所 在 地　香川県三豊市山本町神田 2488-1
業　　種　重電機器製造業

【サステナブルな取組み】

昭和 15 年、当社の前身となる石田金属工業所創業、昭和 58 年の当社設立以来、幾度も経営環境の変化に直面してきました。そのたびに、「人財力」と「技術力」で難局を乗り越え、成長を続けてまいりました。これからも「人財力」と「技術力」を強みとし、大切にする会社であり続けます。私たちの使命は、社員一人ひとりの技術をお客さま、そして社会に提供することです。いつの時代にも社会から必要とされる会社であり続けたい。そのために、現状に満足することなく、技術・サービスのさらなる向上によって社会に貢献するとともに、社員一人ひとりが働く喜びを感じ、社会からも愛される一世紀 100 年企業をめざしていきます。

※宝田電産株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第１回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以　上

株式会社　百十四銀行　高松市亀井町5番地の1　TEL 087-831-0114（大代表）

宝田電産株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

第1回モニタリング報告書



２０２６年１１月１６日

いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行

目次

1.宝田電産株式会社の企業概要..... 1

2.目標達成に向けた進捗状況..... 2

3.総評..... 3

1.宝田電産株式会社の企業概要

企業名	宝田電産株式会社
設立	1983年7月（創業1981年2月）
代表者名	代表取締役社長　石田 貴志
資本金	10百万円
従業員	119名（2026年3月現在）
売上高	24.9億円（2026年3月期）
事業拠点	本社 〒768-0104　香川県三豊市山本町神田2488-1
事業内容	各種配電盤（高圧盤・低圧盤）の設計・製作及び現地改修工事 制御盤・操作盤の設計・製作及び現地配線工事 貴重品管理システム設計・製作及び現地据付・調達・メンテナンス
関連会社	石田エンジニアリング株式会社 石田テクノプロダクツ株式会社 アイ・ジー・エス株式会社 上海宝貴電気設備有限公司

2.目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	再生可能エネルギーの普及促進
内容・対応方針	既存顧客深耕、製品ラインナップ拡充
KPI	2030/3期までに再生可能エネルギー関連配電装置出荷数を年間100面にする （2024/3期：54面）
KPIの進捗状況	エネルギー関連配電装置出荷数：128面 変圧器のトップランナー基準（※）が変わる直前のタイミングであったため、駆け込み需要により当初計画面数を達成。今後も安定的な受注・出荷をめざす。

※省エネ法に基づき、エネルギー消費効率の優れた製品を参考に設定される省エネルギー基準

項目	内容
インパクト	自社の脱炭素化・再生可能エネルギー利用促進
内容・対応方針	設備維持管理、追加設置検討、省エネ推進
KPI	2030/3期までに使用電力の再エネ比率を20%以上とする （2024/3期：0%）
KPIの進捗状況	再エネ比率：25% 自社事務所に設置した太陽光発電システムが本格稼働し、自家消費による再エネ電力の確保に注力。

項目	内容
インパクト	移動に伴うCO_2排出量削減・環境負荷軽減
内容・対応方針	更新ロードマップ策定、補助金活用、充電設備整備
KPI	2030/3期までに社用車の半数をHEV・BEVとする
KPIの進捗状況	2026/3期：25%（2台/8台） 充電インフラについては、駐車場への充電設備整備がすでに完了しており、従業員の私有車にも利用できる体制が整っている。これにより、今後の導入加速に向けた基盤が確立。

項目	内容
インパクト	製品品質の向上
内容・対応方針	基本作業の徹底で不良の発生を抑制
KPI	2030/3期までに製造過程における年間不良率（完成時のX線・通電検査により算定）を2024/3期の90%以下に抑える
KPIの進捗状況	2026/3期：2024/3期対比74.3% 基本作業の徹底、チェック工程の強化により不良率を抑制。

項目	内容
インパクト	従業員の健康増進・ウェルビーイング向上
内容・対応方針	費用補助制度化、就業時間内受診制度導入
KPI	2030/3期までに要再検査の健康診断二次検診受診率を50%にする （2024/3期：28%）
KPIの進捗状況	2026/3期：22% 二次検診の費用を補助するなどの社内制度を充実させ、受診率の向上をめざす。

3.総評

各KPIは概ね計画通り進捗している。早期達成済みの目標もあり、インパクトへの取組みは全体的に活発である。

まず、再生可能エネルギー関連配電装置の出荷数については、変圧器のトップランナー基準改定前の駆け込み需要を取り込んだことにより、2026/3期実績が128面となり、2030/3期の目標である年間100面を達成した。引続き再生可能エネルギー関連の需要取り込みを積極的に推進し、安定的な受注・出荷の拡大をめざす。また、使用電力の再エネ比率についても、事務所棟に設置した太陽光発電システムの稼働により、2026/3期実績が25%となり、目標である20%以上を達成した。脱炭素・再生可能エネルギーの利用促進に向けた取組みが進んでいる。

一方、社用車のHEV・BEV化については、2026/3期実績が25%（2台/8台）となった。充電インフラについては駐車場への充電設備の整備が完了し、従業員の私有車にも利用可能な体制を構築するなど、今後のHEV・BEV導入拡大に向けた整備が進んでいる。2030/3期の目標である50%の達成に向け、今後も計画的な車両更新を進めている。

製造工程の不良率については、2026/3期実績が2024/3期対比74.3%と大幅に改善。基本作業の徹底およびチェック工程の強化により不良発生の抑制につながったものである。引き続きこの水準を維持・向上できるよう、品質管理のさらなる改善に取り組む。

健康診断の二次検診受診率については、2026/3期実績が22%となり、基準年度の28%を下回った。今後は、二次検診費用の補助をはじめとする社内制度の充実を早期に図り、従業員が二次検診を受診しやすい環境を整備することで受診率の向上と従業員の健康増進につなげていく。

百十四銀行として、引き続き当社の取組みに伴走し、目標達成に向けた課題解決のサポートを継続する。